

平和のバラを受け取る斗賀野小学校の児童たち
(佐川町中組の同校)



ビキニ被ばく忘れぬ

斗賀野小に「平和のバラ」 佐川町

【佐川】核兵器廃絶を新たにした。

への願いを込めた「平和のバラ」が2日、高水爆実験(1954年)岡郡佐川町の斗賀野小学校に寄贈され、児童が核なき世界への思い

継がれているバラ。平和や亡くなった人について考えてくれたらうれしい」と話していた。
(楠瀬健太)

40歳で亡くなった第五福竜丸の無縁長、久保山愛吉さんが育てていたもの。県内漁船の被ばく実態を調査していた幡多ゼミナールの高校生らが、約30年前に妻のすずさん(故人)から挿し木を譲り受け、県内で育てられた。

昨年5月、元小学校教員、橋田早苗さん(67)＝香南市野市町みどり野Ⅱが、斗賀野小でビキニ被ばくを伝える紙芝居を披露し、バラのことも紹介。その際、子どもたちから「学校に欲しい」との声が上がっていた。

この日、幡多ゼミの卒業生らが宿毛市に残る株から昨年6月に挿し木した1鉢を届けた。児童を代表し藤本健吾君(12)が「ビキニ被ばくのことを忘れないうようにしたい」とお礼を伝えた。橋田さんは「色んな思いが受け

小社会

2021.3.5 1954年3月1日、米国が太平洋ビキニ環礁で行った水爆実験で被ばくした「第五福竜丸」。無縁長の久保山愛吉さんは東京で入院治療中、病室と古里の静岡県焼津を結んだラジオの生放送で家族と会話している▼小学校低学年だった長女みや子さんが「おとうちゃん、お医者様の言うことをよく聞いて、早くよくなってください」。久保山さんは「おかあちゃんの言うことをよく聞いて、(妹の)安子やさよ子の面倒をみるように」▼40歳で亡くなったのは半年後。東京の第五福竜丸展示館で葬儀の写真を見たことがある。母親のそばに並ぶ三姉妹。一人は遺影を抱き、一人は合掌し、一人は両手で顔を覆って。涙でゆがんだ表情を忘れることはできない▼愛吉さんが育てていたバラが佐川町の斗賀野小に届けられた。ビキニ被ばくを調べていた幡多ゼミナールの高校生らが以前、遭族から挿し木を譲り受け栽培していたもの。バラを世話することで、児童の心には「核なき世界」への強い思いも育まれていくことだろう▼核実験当時、周辺海域では多くの本県漁船も操業し、被ばくした。本県は広島、長崎に続く「第三の被ばく県」とも言えよう。米国はビキニ環礁が属するマーシャル諸島の国民を、「世界の平和に貢献した」とたたえている。核兵器による犠牲を肯定するかのようには▼歴史の風化と修正にあらがうには、事実を学び継承するほかない。